

月報

国立国会図書館



脚本アーカイブズ・シンポジウム

失われた脚本・台本を求めて——文化リサイクルの意義

被災資料を救う 国立国会図書館の1年間の取組みを振り返る

2012.6/7
No.
615/616

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の閉室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 ひらがな しんぶんおさな系とき 平假名新聞稚繪解 子供向け錦絵仕立の三面記事

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 被災資料を救う 国立国会図書館の1年間の取組みを振り返る

12 憲政資料室の新規公開資料から

18 脚本アーカイブズ・シンポジウム

失われた脚本・台本を求めて——文化リサイクルの意義

11 館内スコープ

被災地に行こう。

25 本屋にない本

○『桐に生きて 聞き書き山形桐職人大沼喜代治』

26 お知らせ

- 講演会「HathiTrustの挑戦 デジタル化資料の共有における『いま』と『これから』」
- 利用者アンケート ご協力をお願い
- 国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび2012」
- 国際子ども図書館展示会「世界のバリアフリー 絵本展—国際児童図書評議会2011年推薦図書展」
- 関西館小展示（第11回）「日本の詩歌」
- 平成24年度科学技術情報研修
- 図書館調査研究レポートNo.13『東日本大震災と図書館』を刊行しました
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

国立国会図書館の蔵書から

ひらがな しんぶん おさなゑ とぎ 平假名新聞 稚繪 解 子供向け錦絵仕立の三面記事

川本 勉

明治7（1874）年から14年の約7年間、東京、大阪を中心に殺人、強盗、美談など新聞の通俗の記事と錦絵を合体させた、錦絵新聞なるものが主に観賞用、土産用として人気を博した。戯作者の条野採菊や高島藍泉、講談師の松林伯圓、噺家の三遊亭圓朝らが文章を、落合芳幾や月岡芳年といった浮世絵師たちが絵を担当した。

ここに紹介する『平假名新聞稚繪解』（以下、「稚繪解」と略す）は、この錦絵新聞の流行に便乗し、木版多色刷の絵入り記事という形式をまね、草双紙のような手軽な大きさ、厚さで、1頁に一つの記事を読みやすく平仮名で紹介したものである。

「稚繪解」は、明治8（1875）年2月から5月の間に各新聞に掲載された61件（讀賣新聞20件、郵便報知新聞13件、朝野新聞11件、東京日日新聞9件、平假名繪入新聞8件）の記事を収録しているが、編集、構成の違う2種類が存在する。ここでは便宜上A本とB本とする。

A本（第1号～第4号）は、表紙に色刷りの絵（写真1）があり、本文が単色。B本（初号、2号）は、表紙に絵はなく題簽のみ添付、本文が色刷り。B本には、A本の第4号収録の記事が見あたらない。本文色刷りのB本の方が、本文単色のA本より臨場感にすぐれ、圧倒的な迫力を感じる。当館はA本の第4号が未所蔵、当館以外の所蔵先は筆者が調べ得た限りでは表にあるとおり。

執筆、編集、絵を担当したのは、梅堂國政（1848-1920）。國政は本名を竹内榮久といい、3代歌川豊國に入門し、後に、3代歌川國貞を襲名、文明開化の様子を描いた錦絵や市川左団次の似顔絵など役者絵を得意とした。國政は序文

で「…各社の新聞を種となし文意の解しがたきも有んかと読得やすく平假名に直しこれに画を加へ兒童婦女子の為に一部の草紙となしぬ（ルビは原文のママ）」（写真2）と記し、民衆の啓蒙に有益な新聞記事を子供が読めば、出世のための学問の近道だという。

写真3、4右は、讀賣新聞第73号（明治8年3月31日）に掲載された、神奈川県川崎で起きた殺人事件の記事が題材。友人の戯言を信じ、女ともめて恥をかいた男が、自分を騙し蔑ろにした友人や女らを殺し自害したという内容。

写真3、4左は、郵便報知新聞第628号（明治8年3月30日）に掲載された、長崎県長与村で起きた狐の退治話の記事が題材。毎夜、奇声を発し女子供を恐れさせ、田畑を荒らしていた雌雄の老狐2匹を、若者たちが捕らえ打ち殺し、晒し首にしたという内容。写真5は、それと同じ記事を月岡芳年が、錦絵新聞「郵便報知新聞」に描いたもの。國政は老狐を退治に行く場面を躍動的に描いているが、芳年は晒し首にされた老狐を、群集が取り囲んでいる様子を描き、事件の結末に注目している。発行年月から察するに、國政の方が芳年より若干早く同じ記事を探り上げたようだ。

「稚繪解」は、典拠とした新聞名や号数に誤りがあり、記事の正確さを欠くところもあるが、A本の第4号掲載のオランダの怪盗談やフランス人夫婦の離婚話など、外国ものの記事が見られ、国際性や当時の西欧化の風潮、新しい時代の息吹を感じとれる。また明治初期の世相や出版物の庶民への普及、情報収集の様子を知り得るだけでなく、子供向け啓蒙書の一例が分る興味深い資料ともいえる。

（かわもと つとむ 利用者サービス部人文課）



写真1 A本 第1号～第3号の表紙



写真3 A本 第2号、7丁裏～8丁表



写真2 B本 初号、扉(右)と序文(左)

当館以外の所蔵先一覧

所蔵先	A本	B本
東京大学明治新聞雑誌文庫	全号 第4号の8丁が欠丁	全号 初号に多色刷袋あり
新聞博物館	第4号のみ	初号のみ
国文学研究資料館	第3号、第4号	所蔵なし
早稲田大学中央図書館特別資料室	第1号のみ	所蔵なし

A本 『平假名新聞稚繪解』 梅堂國政画 出版者・出版年不明
3冊(第1号～第3号) 各冊8丁 18.0cm×12.0cm 和装
<請求記号 Y994-J12114, Y994-J12115, Y994-J12116>
東京本館所蔵

B本 『平假名新聞稚繪解』 梅堂國政(竹内榮久)編画 亀遊堂
明治8年4月、6月刊 2冊(初号、2号) 各冊12丁
18.0cm×12.0cm 和装
※近代デジタルライブラリーでモノクロ画像を閲覧できます。
初号 <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/885109>
2号 <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/885110>

参考文献

- 『明治のメディア師たち 錦絵新聞の世界 企画展』吉見俊哉、土屋礼子監修 ニュースパーク(日本新聞博物館)編・刊 2001 <請求記号 UC126-G43>
- 『文明開化の錦絵新聞 東京日々新聞・郵便報知新聞全作品』千葉市美術館編 国書刊行会 2008 <請求記号 UC126-J1>



写真4 B本 初号、11丁裏～12丁表

写真5 錦絵新聞「郵便報知新聞 第六百二十八号」大蘇芳年画 錦昇堂刊 明治8年6月刊 34.5cm×24.0cm
『新聞附録東錦繪』1帖(錦絵の貼り込み帖)のうち
<請求記号 234-85>
※東京本館古典籍資料室所蔵
下は改印と版元を拡大



被災資料を救う

国立国会図書館の1年間の取組みを振り返る



岩手県立博物館での作業の様子

平成23年の東日本大震災によって、国立国会図書館も含め、多くの図書館が建物や所蔵資料に被害を受けました。国立国会図書館は国の図書館として、被害を受けた資料の救済活動に携わってきました。この1年間の振り返り、国立国会図書館が取り組んだ活動をご紹介します。

国立国会図書館の被災状況と

破損資料の補修

東日本大震災によって、国立国会図書館東京本

館のある永田町は震度5強の揺れに見舞われました。東京本館の本館書庫は17層に分かれていますが¹、12層以上の書庫に納められている図書約180万冊が落下しました。そのうち500冊ほどが1～2mほどの高さから落下した衝撃によって破損し、利用に支障があると判断されました。それらは主に、古い図書で製本構造が弱くなったもののほか、新しい図書でも蔵書目録、辞典、紳士録のような大型本や重さのある資料で、背が割れる、形がゆがむ、表紙と本文紙が外れる、見返し紙が



落下によって破損した資料 補修前（写真1）と補修後（写真2）

大きく破れるなどの被害がありました（写真1）。破損した資料は、利用頻度の高い和図書から優先的に補修を行っています（写真2）。

被災図書館の資料復旧支援

震災発生から約1か月後の4月、宮城県図書館と岩手県立図書館から、津波によって被災した資料の復旧方法に関する問い合わせがありました。回答にあたっては被災状況を確認することが必要

と考え、平成23年5月9日から11日にかけて、収集書誌部資料保存課の職員2名を岩手・宮城・福島3県の県立図書館および岩手県内の公共図書館2館に派遣し、各地域の図書館の施設や所蔵資料の被災状況、支援の要望などについて話を聞き、資料の応急処置方法に関する助言を行いました。

訪問先の一つである岩手県野田村立図書館は、津波によって建物が大破し、全所蔵資料2万冊が海水に浸かる甚大な被害を受けました。被災した図書はボランティアの手によって回収され、山積みになっていましたが、震災から2か月近く経過し、ヘドロや海砂の汚損に加えてカビが発生しているものも多く、資料の救済には多大なコストや時間がかかることが推測されました。そのため、当館からは、すべての資料を救うことは非常に難しく、資料の選別を行った上で実物を救済することが重要ではないかとお伝えしました。

その後、岩手県立図書館から再び要請を受けて、5月30日から6月2日にかけて資料保存課の職員1名を野田村立図書館へ派遣し、被災資料の応急処置作業を実際に支援することになりました。

岩手県立図書館の呼びかけによって集まった近隣市町村立図書館員などの協力を得て、まず、被災した資料の中から、特に救済して残したい郷土資料に重点を置いて選別を行いました。選別した資料はよく乾燥させた後、刷毛で汚れを落とし、

1 東京本館の本館書庫については、本誌579（2009年6月）号 pp.17-19 「国立国会図書館の書庫 第1回 東京本館」参照。



写真3 汚れ落とし、殺菌作業の様子

カビが発生していたら消毒用アルコールで殺菌するといった応急処置を行いました（写真3）。処置の済んだ資料はタイトル等を記録したリストを作成し、当面の間の保護を図るため、中性紙で簡易な保存容器を作製して収納しました。選別された資料は全壊した図書館の建物からすぐ近くであり、より安全な野田村体育館の2階へ移動させました。

この応急処置のタイミングに合わせ、野田村立図書館では、岩手県立図書館の計らいによって、全国から寄贈された大量の児童書のコーティングなどの装備やデータ入力も進められました。被災した図書館の復旧には、資料の救済だけではなく、利用再開に向けての総合的な支援が必要だということを実感する貴重な経験となりました。

後日、選別された郷土資料については、まず、岩手県立図書館から近隣図書館に対して、同じ資料を複数部数所蔵していれば、被災資料と差し替えるために野田村立図書館に寄贈してほしいという呼びかけを行いました。しかし、ベテランの司書によって厳選された郷土資料は大部分が野田村立図書館にしか所蔵されていないものであったため、寄贈の申し出があったのは20冊程度にとどまりました。最終的に代替資料が入手できなかったのは約220冊でした。

これらの資料については、前述のように応急処置が済んでいたにも関わらず、数か月が経過するうちに、残っていた水分によって紙が波打ち、変形してしまう様子が見られました。このため、国立国会図書館に搬送し、さらに状態を安定させる



写真4 野田村立図書館所蔵資料の水洗いの様子



写真5 野田村立図書館所蔵資料の水洗いの様子

ための処置を行うことにしました。

はじめに、資料ごとの状態や形態、紙質を確認して処置方法を決めます。水洗いが可能なものは解体して洗浄し（写真4、5）、水洗いが不向きな図書は刷毛や超極細繊維クロスで汚れを落としました。さらに、必要と判断されたものには補修も行いました。どのような処置を施したかを後で確認できるように、資料1点ごとに処置記録を作成しました（写真6）。作業は平成23年11月から平成24年3月にかけて行い、処置後の資料は、平成24年3月29日に野田村立図書館へ返却しました。



写真6 対象資料（処置前）と記録票

建物の改修工事も終了し、大きな被害を乗り越えて野田村立図書館は平成24年5月21日に再開しました。被災資料の救済は図書館の復旧に向け

た支援の一部に過ぎませんが、図書館同士のつながりの中で救済活動が行われたことには、大きな意義があったと考えています。

文化財レスキュー事業

文化庁では、平成23年4月1日から東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（以下「文化財レスキュー事業」）を実施しています。これは、東日本大震災で被災した文化財等を緊急に保全し、がれき撤去等による文化財の廃棄・散逸を防止することを目的とした事業です。国や地方による文化財指定等の有無を問わず、絵画、彫刻、工芸品、古文書、歴史資料、美術品等がおもな対象です。国立文化財機構と博物館、美術館、学会などの機関・団体が救援委員会を構成し、被災した県の教育委員会からの依頼を受けて救援活動を実施するという方式で、様々な活動が行われています。

国立国会図書館は、平成23年5月上旬に文化庁から依頼を受け、文化財レスキュー事業救援委員会に参加し、協力することになりました。文化財レスキュー事業として当館が行った資料救済活動のうち、岩手県立博物館を拠点として実施した古文書の救済処置について詳しく報告します。

岩手県立博物館は、岩手県内における文化財レスキュー事業の拠点の一つとなっています。被災した県内市町村の博物館、図書館や個人宅から多くの博物館資料、古文書等が運び込まれ、救済活動が進められています。

岩手県陸前高田市立図書館は、津波によって全壊し、職員も全員犠牲となりました。しかし、所蔵資料のうち、2階の重要書庫に置かれていた古文書や市議会資料、市史編纂資料等は幸いにも流出を免れて救出され、平成23年4月に盛岡市内にある岩手県立博物館に搬入されました。中でも、

岩手県指定有形文化財である吉田家文書²は、地域の歴史資料として住民に親しまれ、郷土史の研究者などが長年にわたり解説を進めてきた貴重な古文書であり、地元からも資料復旧への大きな期待がありました。岩手県立博物館では、吉田家文書の汚れ落とし、水洗い、海水の塩分等の除去、真空凍結乾燥機を用いた乾燥、殺菌のためのガス燻蒸などの応急処置が施されました。

その後、岩手県教育委員会からの依頼を受けて、国立国会図書館が吉田家文書の一部およびその他古文書の状態調査と、岩手県大槌町の個人宅から救出された古文書（以下「個人文書」）の応急処置を行うことになりました。資料保存課の職員と東京都立中央図書館の資料修復専門員で文化財レスキューチームを構成し、平成23年12月から24年3月までの間に4回盛岡に赴き、岩手県立博物館の指導のもとで作業を行いました。

吉田家文書の一部については、被災の状態を1点ずつ点検し、写真を撮影して記録票を作成しました。海水を被ったことによって過去の補修部分のはがれたり、汚損、破損したりしているため、今後、国立国会図書館に搬送し、本格的な修復を行う予定です。

個人文書については、事前に写真撮影を行ってから、応急処置を行いました。レスキューチームのメンバーのほか、博物館職員なども参加し、多いときには10人以上で流れ作業を行ったこともありました。時間が限られていることから、工程はできるだけ簡単にし、資材は博物館内にあるも

2 江戸時代から明治にかけて仙台藩のおおきもいり大肝入を世襲していた吉田家に伝わる古文書類。執務記録である定留じやうりゅうどめのほか、伊達政宗黒印状、気仙郡村絵図などを含む。平成7年に岩手県指定有形文化財となり、陸前高田市立図書館に寄託されていた。

のなど、なるべく手に入りやすいものを用いるようにしました。

個人文書のうち、冊子になっているものは、所有者の了承を得て解体し、水洗い、乾燥を行ってから、綴じ直しを行うことにしました。短時間で多くの資料を処置するため、1丁ずつ解体するのではなく、10～15丁程度に小分けして洗浄し、ひもに吊るして扇風機の風を当てて乾燥させました（写真7～9）。乾燥後、出来上がりを確認し、形を整え、綴じ直しました。

紙の質や被災の程度によって水洗いが不能と判断された資料については、刷毛で汚れを落とすだけにとどめました。

岩手県立博物館内では、多くの専門家等によって文書類だけでなく、動植物の標本、民具など、さまざまな博物館資料の修復が行われていまし



写真7 個人文書の洗浄作業の様子



写真8 個人文書の吸水作業の様子



写真9 個人文書の乾燥作業の様子

た。対象の資料や作業の内容はまったく違っていても、全員が地域の文化財を残すという一つの目的に向かっており、心強さを感じました。

破損資料の補修研修

報道では沿岸部の被害が大きく取り上げられましたが、その一方で、被災地の内陸部では、地震そのものによって多くの図書館等で建物の損壊やガラス破片の飛散、所蔵資料の落下とそれによる破損といった大きな被害が発生していました。

国立国会図書館には、落下の衝撃によってページが破れたり、表紙が外れたりした図書の簡易な補修方法や、空調や排水管の破損により水に濡れた資料への対処方法について知りたいという要望が寄せられました。そういった要望を受け、国立国会図書館は、被災県の図書館が主催する、破損、水損資料の補修研修に、資料保存課の職員を講師として派遣しました。

平成23年7月には、東北地域の大学図書館を対象にした研修を東北学院大学図書館で実施し(写真10)、また、同じ7月に岩手県立図書館で、岩手県内の公共図書館を対象に研修を行いました。9月には宮城県図書館で、12月には福島県立図書館でも、県内公共図書館を対象に研修を行いました。

派遣先で伺った意見を参考にし、ホームページで公開しているマニュアル³の改訂も行いました。

国立国会図書館は、被災地の図書館等からの依頼を受けて、平成23年5月から被災資料の救済や研修講師派遣などの支援に取り組んできました。これらの活動の中で、いかに図書館の被害を小さ



写真10 東北学院大学図書館での研修の様子

くし、早く復旧できるようにするかという、資料防災の重要性を改めて実感しています。これまでも関連の講演会を実施するなど情報共有を図ってきましたが、図書館における防災の考え方を普及していくことは、大きな課題です。

「支援する」側の立場とはいえ、実際には、地域の文化の復旧、復興に貢献したいという志を持つ被災地の多くの人々に支えられ、教えられて活動を進めてきました。人と人、図書館や関係機関とのつながりによって被災資料の救済を実現できたという、この貴重な経験を生かし、さらに研鑽を積んで、今後も資料復旧の支援に取り組んでいきたいと考えています。

(収集書誌部資料保存課)

3 国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) > 国立国会図書館について > 資料の保存 > パンフレット、マニュアル、研修テキスト等 > 「水にぬれた資料を乾燥させる」、「カビが発生した資料をクリーニングする」
http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/data_preservation-library.html#

被災地に行こう。

昨年の5月の大型連休中に、東北新幹線に乗って初めて被災地へ向かいました。東日本大震災の後、被災地とは比べものになりませんが、東京でも余震や計画停電などで不安で不自由な生活が続きました。テレビでは被災地の様子が繰り返し映し出され、それを見続けているのもいたたまれない毎日。東京で手をこまねいているよりは被災地で少しでもお役に立った方がいいと思いつき、被災資料の救援ボランティアに参加するのが始まりで、その後も何度か個人的に被災地に足を運びました。

そうした中で、文化庁主催の東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業に国立国会図書館が参加し、個人としてだけでなく業務として資料保存課でも被災資料の救援に取り組むことになりました。資料保存課職員を中心に外部の方も含めた3～6人のメンバーで、岩手県立博物館に4回赴きました。1回の滞在期間は3日間という短い期間です。限られた場所や道具で、いかに効率よく、的確に作業を行うかにさまざまな知恵を出し合いました。現地のスタッフの方にも加わっていただき、作業が次第に軌道に乗り始めると、全員に不思議な一体感が生まれてくるのを感じました。

最初は被災地の方にご迷惑をおかけしないこ



岩手県立博物館での被災資料救援作業の様子

とだけを考えていましたが、回を重ねるにつれて救援活動には「正解」がないことがわかってきました。一口に被災資料の救援といっても、現地の状況、被災資料の種類や被災状況、救出の経緯、救援活動に関わる団体も様々です。考えてみればそのような状況で一つの決まった型などあるはずもなく、実際いろいろな被災地に行きましたが、まったく同じ救援活動が行われている所はありませんでした。

ただ、もし東南海や首都直下地震などが起こった際にどのように被災資料の救援を行ったらいいのか、またどのように救援を受け入れたらいいのかのヒントは必ずあるはずだと考えています。そのヒントを探しながら、これからも被災資料の救援活動を続けていきたいと思っています。

(資料保存課和装本保存係 Vicke)

憲政資料室の新規公開資料から

国立国会図書館は、幕末・維新时期から現代に至る政治家、官僚、軍人らの所有していた個人文書（憲政資料）を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規に公開した資料をご紹介します。

谷干城関係文書（寄託）

（712点 平成24年5月公開）

谷干城は、明治期の土佐出身の軍人で政治家でもあります。谷の関連資料については、これまで立教大学に所蔵されているものがよく知られています¹。

このたび、小林和幸青山学院大学教授による整理²、仲介を経て、ご子孫から国立国会図書館に谷家に伝えられていた関係資料が寄託されました。谷宛ての手紙や写真、意見書の草稿類、家族関係、幕末期のものが比較的多く残されています。

写真1は、西南戦争の余燼冷めやらぬ明治10（1877）年10月20日付けで、谷と同じ土佐出身、当時元老院議員であった佐佐木高行から送られた

手紙の一部です。その一節に「如貴命真民権ハ勿論、議事も今日之世界之光景ニ而ハ御国迎も早晚被相行可申候。」と記され、議会政治の導入について早晚行われるだろうとの谷の政治への考えをうかがうことができます。

谷干城（1837-1911）

天保8（1837）年土佐生まれ。慶応4（1868）年、軍監として戊辰戦争に参戦、明治9（1876）年熊本鎮台司令長官、翌年の西南戦争では熊本城にて防戦。後に学習院院長、子爵となり、第1次伊藤内閣農商務大臣、その後条約改正に反対して辞職。貴族院議員。



- 『谷干城関係文書 立教大学図書館所蔵』（北泉社 1995.2）マイクロフィルム版もあり。
- 小林和幸「谷家所蔵『谷干城関係文書』目録並びに解題」（『青山史学』第27号 2009）

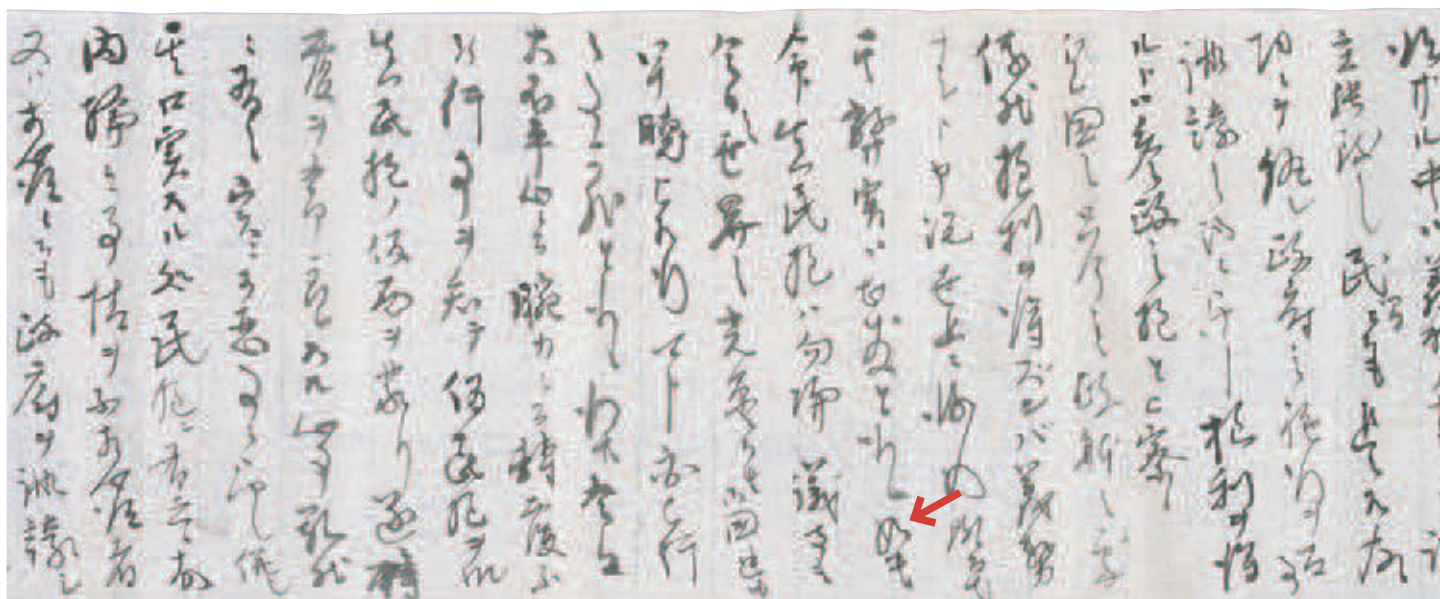


写真1 佐佐木高行書簡 明治10年（谷干城関係文書（寄託）56-4）

重光葵関係文書（寄託）

（1,651点 平成24年3月公開）

重光葵は、戦前は外交官として、戦後は政治家として活躍しました。当該資料は、大分県杵築市の重光の生家に、弟の重光蔵氏の所蔵として残されていたものです。大東文化大学武田知己准教授の仲介により、国立国会図書館に寄託されました。重光家の親族間の手紙、重光の自筆草稿類、外務省作成の資料報告書といった文書が残されています。

重光は昭和21（1946）年4月29日にA級戦犯容疑者として逮捕、起訴されます。写真2はその約一月後の5月27日付けで、巣鴨拘置所の重光から弟の蔵に送られた手紙の一部分です。「裁判の方ハ随分困難に付相違なきも、もともと小生程終始平和ノ為めに軍部と闘ひたるものなく、それがある地位に在りし為め引きかかりたる次第なるが、裁判に於ても徹底的に闘ふ積りに候」とその

心情を述べています。

なお、重光の関係資料は、衆議院憲政記念館に日記、手記、書簡類が寄託され、重光葵記念館（神奈川県足柄下郡湯河原町）、山溪偉人館（大分県国東市）、大分県立先哲史料館（大分県大分市）、きつき城下町資料館、大分県立杵築高等学校十王会館、無迹庵（重光葵生家）（大分県杵築市）にも残されています。

重光葵（1887-1957）

明治20（1887）年大分生まれ。明治44（1911）年東京帝国大学卒業、外務省勤務。昭和7（1932）年駐華公使の時上海で爆弾テロにより負傷。戦時中は東条内閣、小磯内閣で外務大臣を務め、戦後、東久邇宮内閣外務大臣、日本政府首席全権として降伏文書に調印。東京裁判に起訴され公職追放、昭和25（1950）年仮釈放。昭和27（1952）年追放解除後、改進黨総裁、日本民主党副総裁、第1次鳩山内閣で副総理兼外務大臣、昭和31（1956）年日本の国連加盟に際し政府代表として演説。

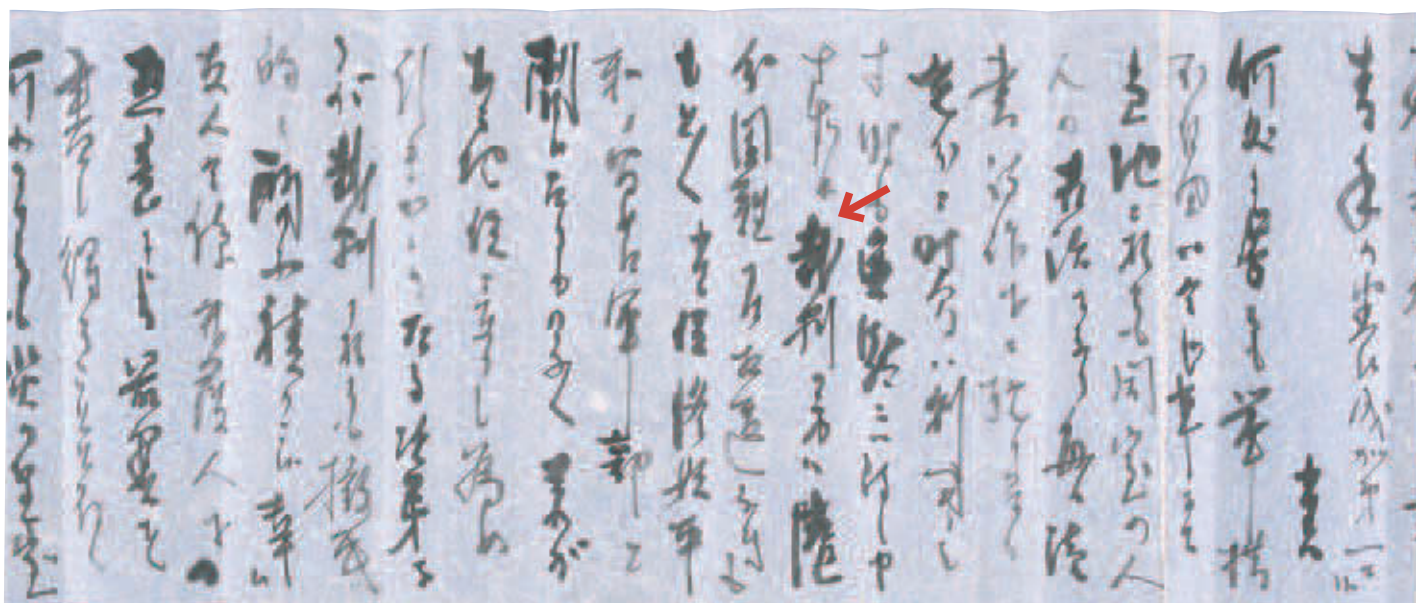


写真2 重光葵書簡 昭和21年（重光葵関係文書（寄託）262）

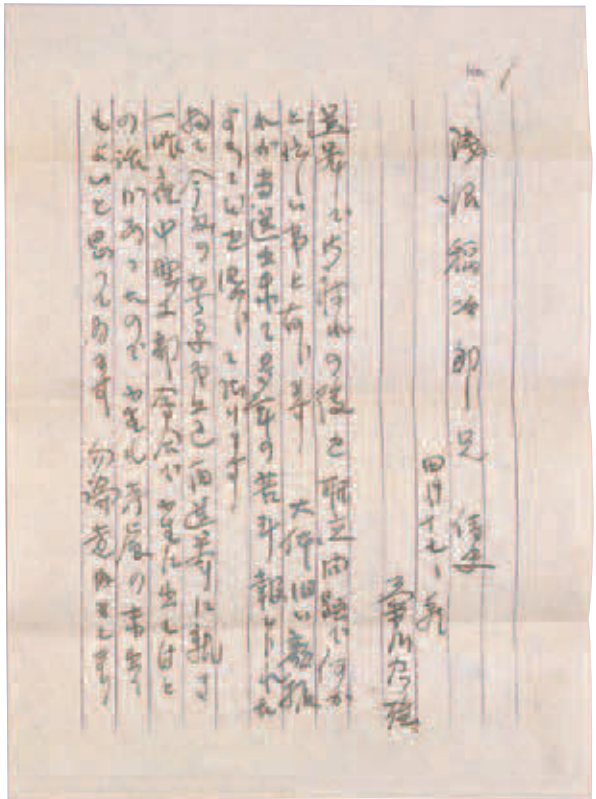
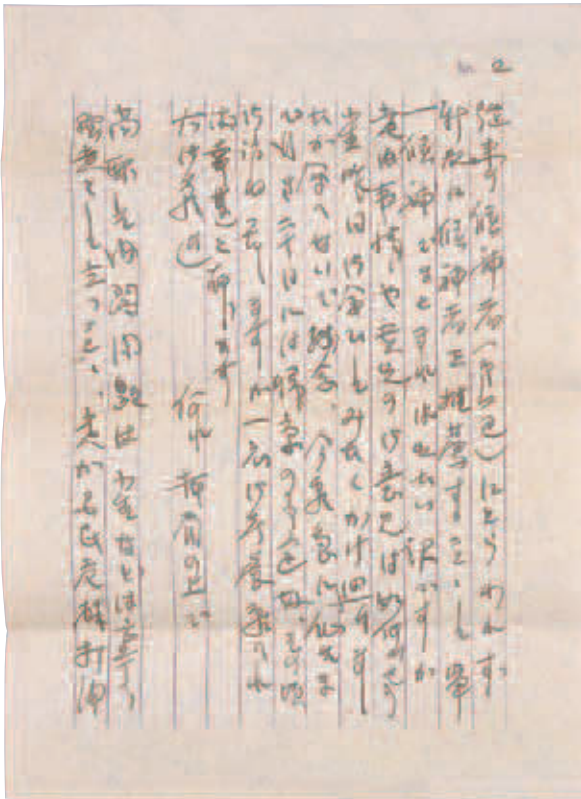


写真3 菊川忠雄書簡 昭和21年（浅沼稻次郎関係文書（その2）2205）

浅沼稻次郎関係文書（その2）

（7,121点 平成21年7月、24年6月公開）

浅沼稻次郎関係文書は、昭和38（1963）年に国立国会図書館へ寄贈され、『浅沼稻次郎関係文書目録（稿）』（昭和46（1971）年）が作成されています³。その後、平成21年にご遺族から追加の資料が寄贈されました。そのうちの書類の部については既に公開していますが、今回は書簡の部を公開しました。書簡には社会党委員長就任に対する祝辞や、刺殺された浅沼の葬儀の際の弔文も含まれ、浅沼の幅広い層からの人気をうかがうことができます。

写真3は、昭和21（1946）年4月17日付けの菊川忠雄⁴からの手紙です。この手紙では、同年4月10日に実施された第22回総選挙の結果への所感や、自身の東京第2区再選挙への出馬云々、連立

内閣への考えを当時日本社会党組織部長であった浅沼に伝えています。実際には、菊川はこの再選挙に出馬をしていません。

なお、法政大学大原社会問題研究所にも浅沼稻次郎発信・浅沼稻次郎宛て書簡が所蔵されています。

浅沼稻次郎（1898-1960）

明治31（1898）年三宅島生まれ。大正12（1923）年早稲田大学卒、社会主義運動に従事する。昭和11（1936）年衆議院議員、戦後、日本社会党結成に際し組織部長となる。昭和35（1960）年社会党委員長となり日米安保改定反対に奮闘、同年10月12日、日比谷公会堂で演説中に刺殺。



³ この時に寄贈された資料で当時公開していなかった資料についても、現在整理中。

⁴ 菊川忠雄（1901-1954）労働運動家、政治家。戦前から労働運動に従事。昭和22（1947）年の衆院選挙で当選。菊川の死後、浅沼は『菊川忠雄 その思想と実践』（日本労働組合総同盟菊川忠雄追悼出版委員会 1956）に追悼文を寄せている。



写真4 経済研究所創立関係資料 昭和21年（高橋亀吉関係文書（その2）5602）

高橋亀吉関係文書（その2）

（1,096点 平成23年11月公開）

高橋亀吉は、戦前から戦後にかけての著名なエコノミストです。今回新たに公開した「高橋亀吉関係文書（その2）」は、平成23年10月にご遺族から寄贈を受けたものであり、高橋の執筆記事、原稿・メモ類の他に自筆ノートや自身が創立した経済研究所関係の資料が含まれています。

政治研究会、各種審議会資料、原稿類など大正期から昭和50年代までの経済・財政資料を中心とした、「高橋亀吉関係文書（その1）」⁵は、平成5年にご遺族より寄贈を受けて既に公開しています。

また、団体関係資料（国策研究会・大東亜問題調査会、昭和研究会、日本経済連盟会他）や戦後の審議会（経済審議会、証券取引審議会、国民経

済計算審議会他）資料、明治期の経済事情について調査した際の資料など、日本証券経済研究所図書館に所蔵されている資料を複製し、「高橋亀吉関係文書（証券図書館所蔵分）」として平成11年に公開しています。

なお、現在憲政資料室をはじめ、国内の複数箇所に分散して保管されている高橋の関係資料の概

高橋亀吉（1891-1977）

明治24（1891）年山口生まれ。大正5（1916）年早稲田大学卒。その後、東洋経済新報社に入社し経済記者となり、『東洋経済新報』編集長、退社後も経済評論家として活躍。内閣調査局専門委員等各種政府委員歴任。戦後公職追放、追放解除後もエコノミストとして活動。



5 詳細は、本誌394（1994年1月）号 pp.28-29 「新収資料紹介 高橋亀吉関係文書」参照。

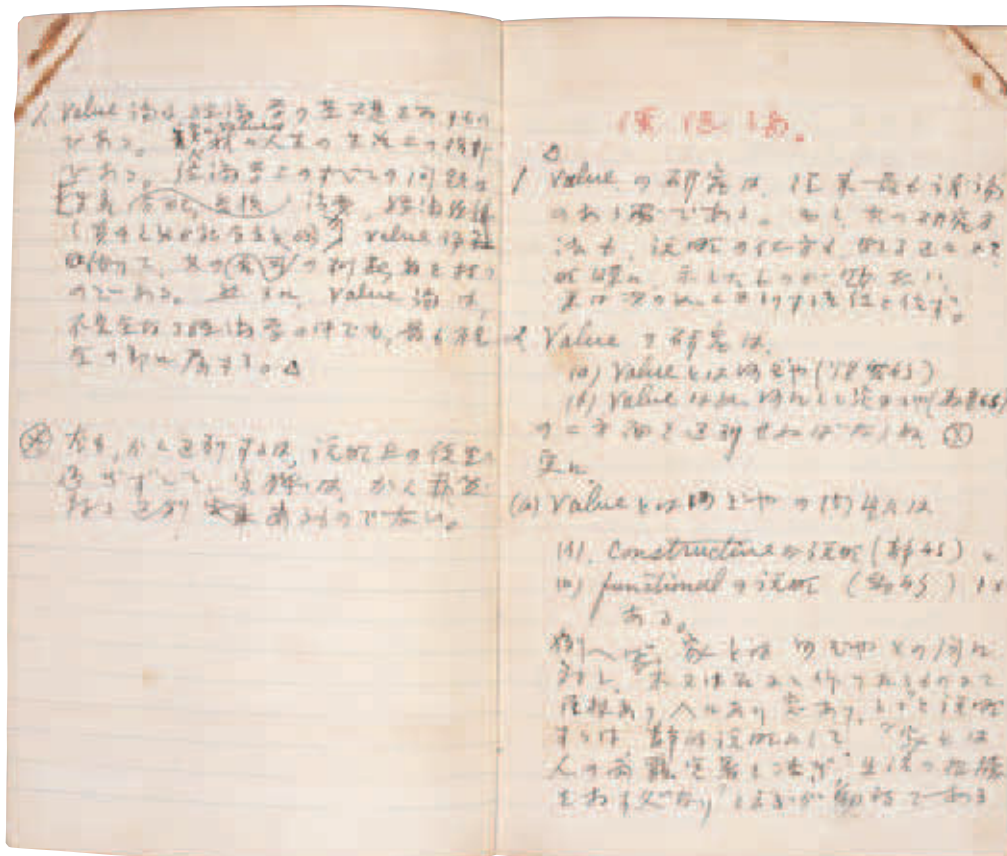


写真5 自筆ノート「価値論」大正8年（高橋亀吉関係文書（その2）5454）

要については、以下の徳山大学総合研究所の「高橋亀吉サイト」に詳しく紹介されています。

(<http://chaos.tokuyama-u.ac.jp/souken/kamekichi/index1.html>)

その他、新規公開資料のうち、主に戦後期の資料としては以下のものがあります。

渡辺武関係文書

(465点 平成23年9月公開)

戦前期からの大蔵官僚で、占領期に大蔵省の渉外担当責任者として、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）との交渉に従事した渡辺武

(1906-2010)の関係文書は、占領期のものが半数近くを占めます。財務官時代の資料や大蔵省OBとして『昭和財政史—終戦から講和まで—』の編纂に携わった際の関係資料も含まれています。

宝珠山昇関係文書

(755点 平成23年9月公開)

防衛庁長官官房長、防衛施設庁長官を歴任したほうしゅやまのぼる宝珠山昇（1937-）は、防衛力整備の長期計画策定を中心とした戦後防衛政策の中枢に長く関係してきた防衛官僚です。当関係文書には、防衛大綱や防衛力整備、防衛行政等、防衛政策の広い分野に及ぶ資料が含まれています。



写真6 基地関係資料 昭和30年～50年代
 (日本社会党国民運動局旧蔵資料200～208) [Box16]
 後方は資料収納箱 (Box13～16)

文中の肖像

谷干城

電子展示会「近代日本人の肖像」
 (<http://www.ndl.go.jp/portrait/>)

重光葵

重光葵著『外交回想録』 毎日新聞社 1953
 口絵
 「国立国会図書館デジタル化資料」でご覧になれます (館内のみ)。

浅沼稲次郎

浅沼稲次郎著『わが言論斗争録 日本の完全独立と平和のために』 社会思潮社 1953
 口絵
 「国立国会図書館デジタル化資料」でご覧になれます (館内のみ)。

高橋亀吉

高橋亀吉「私の履歴書」 pp.[233]-302 『私の履歴書 文化人15』 日本経済新聞社編・刊 1984 <請求記号 GK13-860> p.237

日本社会党国民運動局旧蔵資料

(1,818点[198箱] 平成24年2月公開)

日本社会党国民運動局旧蔵資料は、左右社会党統一以後の1955年から1980年代に至る活動の中で、作成、収集された資料です。沖縄・安保・基地問題、護憲、外交、人権などの分野で、労働運動や市民運動と連携しつつ、保守政権と対決していた当時の革新勢力の「運動」が記録されたファイル、小冊子、ビラ等の資料が中心となっています。

(利用者サービス部政治史料課)



憲政資料室のご案内 (東京本館 本館4階)

幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。

Scripts Archives Symposium

脚本アーカイブズ・シンポジウム

失われた脚本・台本を求めて ——文化リサイクルの意義

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム事務局代表 石橋 映里



日時 平成24年2月15日（水）
場所 国立国会図書館 東京本館 新館講堂

第1部 座談会 『夢——脚本アーカイブズの、』
司会 堀川 とんこう（演出家）
参加者 藤村 志保（女優）
山田 太一（脚本家）
中園 ミホ（脚本家）
奥山 侑伸（放送作家）

第2部 パネルディスカッション
『デジタルアーカイブの潮流の中の脚本・台本』
司会 吉見 俊哉
（東京大学副学長）
パネリスト 長尾 真
（国立国会図書館長（当時））
木田 幸紀
（日本放送協会理事）
岡島 尚志
（東京国立近代美術館フィルムセンター主幹）

2月15日、国立国会図書館東京本館において、脚本アーカイブズに関するシンポジウムが行われた。ここでは、脚本アーカイブズの現状と当日の内容を簡単にご紹介する。

1 脚本アーカイブズとは

平成17年、日本放送作家協会内に、脚本家・当時の理事長の故市川森一氏の提唱で「日本脚本アーカイブズ特別委員会」が設置された。以来7年間、日本放送作家協会が主体となり脚本・台本の収集・保存活動を行い、現在4万冊強の脚本・台本が「日本脚本アーカイブズ」



左から 堀川 とんこう 氏、藤村 志保 氏、山田 太一 氏

に保管されている。

一方、平成23年5月、文化庁と国立国会図書館との間で「我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承に関する協定」が結ばれ、当面連携・協力を推進する分野の一つとして、放送脚本・台本の所在状況や保存方法等に関する調査研究等についての検討があげられた。こうした脚本・台本の保存に関する機運が高まる中、日本放送作家協会と国立国会図書館共催によるシンポジウムが開催された。

2 第1部 座談会

シンポジウム第1部では、「夢——脚本アーカイブズの、」と題して、演出家や女優、放送作家が、脚本や台本についてそれぞれの立場から率直に語り合った。

映像のない脚本・台本の保存を

冒頭、脚本の魅力について藤村志保氏（女優）

から、「脚本の1頁目をめくるときのときめきと知らない世界を覗くその興奮は、読みたい小説の1頁目をめくるよりも興奮する」と語った。藤村氏は脚本アーカイブズに400冊もの脚本を寄贈されたが、そのひとつひとつに千代紙などで丁寧な表装を施してあり、会場でも披露された。藤村氏は初期のテレビドラマが、それ自体文化として成立していると強調すると共に、テレビの歴史は次の世代に残していく必要がある、とりわけ1960年代以前の映像が残っていない番組の脚本・台本は貴重だと語った。

脚本・台本を保存する意義

山田太一氏（脚本家）は、妻が夫に言う「お風呂になさいます？」などの言葉の変遷について、かつて普通の東京の家庭内の会話としてあったものがドラマには表現されており、それがどの年代にどのように変化したかがリアルに反映されてい



左から
中園 ミホ 氏
奥山 侑伸 氏



て、歴史の第一資料になり得るなどと説き、また、奥山侑伸氏（放送作家）はバラエティの現場のエピソードを披露しつつ、バラエティやドキュメンタリーなどの番組にもすべて台本が存在し、台本があるからこそ面白いものになると語った。

一方、司会を務めた堀川とんこう氏（演出家）は、脚本家が苦しんで書いた脚本にもかかわらず、放送が終わると放送局で脚本がどういう扱いを受けてきたかについて、私たち制作者として自慢できないものがあると語りつつ、脚本アーカイブズの意義は、後進の人材育成に資すること、放送についての批評の質の向上に繋がることであると強調した。

3 第2部 パネルディスカッション 社会としての取組みを

まず、吉見俊哉氏（東京大学副学長）から、社会が大量消費からリサイクル・循環していく時代へと向かうなか、文化リサイクルという考え方が重要なモーメントになっているとの指摘があり、脚本・台本の保存について、以下の4つの課題の提示があった。

(1) 循環・プロセス

脚本等の資料を蓄積して保存するとともに検索システム等を構築し、再活用・再創造していくというプロセス全体を設計すべき。

(2) 人材養成

図書館に司書、博物館に学芸員の方がいるように、

アーカイブにも独自の専門家（アーキビスト）が必要で、そのための人材を社会が養成することが重要。

（3）法の整備

「オーファン著作物（オーファン・ワークス）」といわれる「誰が最終的な所有者なのかかわからない作品」が大量にあり、有効利用するために法の整備が重要。

（4）ナショナルな拠点の必要性

（ア）脚本・台本を保存するための、何らかの拠点を作ることが必要。

（イ）また、脚本アーカイブズのモデルケースとして市川森一氏の作品を保存する「市川森一アーカイブズ」の構築を提案したい。この試みの中から脚本アーカイブズの方向性や課題、問題点等を



吉見 俊哉 氏

浮き彫りにできるのではないか。

脚本・台本と作品の関係

続いて、木田幸紀氏（日本放送協会理事）は、テレビドラマの仕事を背の高い円錐を作ることに例え、脚本が土台の7割くらいを占め、2割が土台に乗る出演者、そして最後の1割が演出によって成り立つとした。脚本は作品の重要な設計図であるが、脚本と出来上がった作品はかなり別のものである。最後を担う演出が本質を理解していないと、台無しにしてしまう。一方、時間がたってから脚本を読むと、制作時には見えなかったものが見えてくることもあり、脚本アーカイブズが充実すればそういう検証ができるようになり、大きな意味をもつと述べた。



木田 幸紀 氏

保存しようという意志

また、東京国立近代美術館フィルムセンターでは映画フィルムと関連資料のほか、シナリオを4万冊所蔵しているとの紹介が岡島尚志氏（同センター主幹）からあった。これらをどのように公開していくかは議論の余地があり、「物」を保管するためには法、人、お金、技術が必要だが、一番大切なのは保存しようという意志である。フランスでは「物」や文化の保存が無意識化されている。大規模な図書館や保存庫が設置され、文化の保存を国がきちんとカバーしてくれているので、国民は安心して「物」を捨てられる。その効用は大きいと岡島氏は指摘した。



岡島 尚志 氏



長尾 真 氏

デジタルアーカイブ — 研究の宝庫

長尾真氏（国立国会図書館長（当時））からは、文化資源のデジタルアーカイブの重要性について説明があった。ヨーロッパの図書館で古い書物が火災により消失したり、かつてフィレンツェの図書館が洪水の被害を受けたりしているが、デジタル化すればこういったリスクを避けられる。著作権の問題はあるものの、どこにいても見ることができるということも利点である。最近ではデジタル化の技術が向上したため、絵画などはデジタル画像で見たほうが細部を良く分析できるし、色々な再利用も自由にできるようになる。

フランス国立視聴覚研究所（INA）は民間の放

送会社のテレビ番組まで収集している。EUでも、17か国のテレビ番組1万4,000点をデジタル化して保存し、今年中に3万点にまで増やす予定である（EUscreenプログラム）。脚本は映像とペアで保存することが大切である。脚本をテキスト・データ化し、その映像とリンクさせることで映像の検索が容易になれば、発音のアクセントとかイントネーションが時代とともにどう変わってきているか、敬語がどう使われているか等々が明らかになる。脚本とそれに対応する映像のデジタルデータが自由に使える環境が整えば、研究のための宝庫になるという観点が示された。

引き続きパネルディスカッションでは、現物保存とデジタル化保存の力点の置き方、相互的な関係性について議論が行われた。

岡島氏から、使わなくなったフィルムは昔なら完全にこの世から消えていたが、フィルムセンターに寄贈すれば後世まで残ると考える人が非常に増えた。1年間に4,000本から8,000本のフィルムが集まるようになり、数万本の映画がこの世から消えないで残ったことが大事である、フィルムセンターが所蔵する脚本のデジタル化は今後の課題であるが、ナショナルデジタルアーカイブセンターのようなところが、われわれが保存した現物をデジタル化してアクセスできるようにしていくようなことがあってもよいのではないか、という



発言があった。

また、長尾氏からは、国立国会図書館においても、古典籍等が現物でたくさん保存されているが、利用という観点からはデジタル化の必要性を提唱しているとの発言があった。国立国会図書館は蔵書のデジタル化を進めているが、約210万点がようやくデジタル化できたという段階。ただ、画像としてデジタル化されているだけで、テキスト・データ化はされていない。テキスト・データ化においては、脚本のように手書きが多いもの、手書きで修正されたもの、印刷が汚れているものは機械による読み取りが難しいが、日本中の人ができるようになるのであれば、相当予算をかけても十分に価値のあることではないかと思う。

最後に吉見氏から、デジタル化して再利用していくプロセスにおいては、映画であれテレビであれ、異なるジャンルが垣根を越えて文化的な基盤を作っていくということが不可能ではないし必要

である、また、著作権者不明・所有者不明の著作物をどう公共化するかなど、公共的な管理をしていく権利処理の仕組みや、保存から再利用につながるデジタル化のプロセスの仕組み作りが必要であるというまとめの発言があった。

4 脚本・台本の保存に向けて

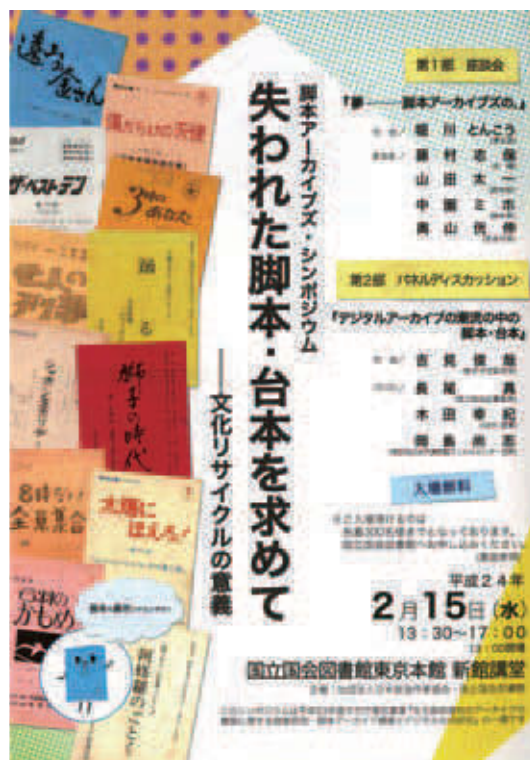
国立国会図書館と文化庁の協定を受けて、日本放送作家協会・日本脚本アーカイブズ特別委員会では、文化庁委託調査・研究事業の一環として「全国に眠る台本・脚本の所在調査」を実施した。その中で公共図書館へのアンケート調査を行った結果、回答機関1,980館のうち102館で何らかの脚本・台本を所蔵していることが判明した。その数はおよそ10,000点。文学館ではない図書館に脚本・台本が意外に多く所蔵されていることがわかり、あらためて所蔵情報を横断検索できるシステムの必要性を感じた。

ファクシミリでのアンケートで担当者の皆様にお手をわずらわせたことにお詫びを申し上げるとともに、ご協力頂いた全国の公共図書館の皆様に対して心よりの感謝をお伝えしたい。

平成24年4月の日本放送作家協会の一般社団法人化にともない、日本放送作家協会内に置かれた日本脚本アーカイブズ特別委員会は解消され、脚本アーカイブズ活動は6月に設立される予定の新組織「一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コン

ソーシアム」に引き継がれる。放送作家だけでなく、制作関係者、出演者、放送局、放送評論家、研究者等の関係者が連携する形で活動を行うこととなる。今後の活動の柱の一つとして、シンポジウムで提言された「市川森一アーカイブズ」構想が、平成24年12月の試行公開を目標に動き始めている。脚本アーカイブズに情熱を注ぎ続けた市川森一氏は、志半ばにして昨年（平成23年）12月に急逝した。この構想が脚本アーカイブズの試行的ケースとして、クリアしなければならない課題の抽出や利用状況や意義の把握等に資することを願っている。

(いしばし えり)



本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

桐に生きて

聞き書き山形桐職人大沼喜代治

大沼喜代治[述] 山形印刷編・刊

2010.10 192頁 22cm <請求記号 DL731-J174>

「桐紙」という紙をご存知だろうか？「桐を原料にして作られた紙？」と思われるかも知れないが、さにあらず、「桐紙」とは、桐の木を限りなく薄く削り（これを経木と呼ぶ）、糊をつけて紙を貼りつけたものだ。山形県に伝わる産業（伝統工芸品）であり、たった1軒残った製造元は、平成22年4月に惜しまれつつ百有余年の歴史に幕を下ろした。

本書は、この「山形桐紙」を家業とした大沼家4代目当主であり桐紙職人でもある大沼喜代治氏の聞き書きをまとめたものである。桐紙の歴史から製作方法、大沼家当主たちの生き立ちまで、写真や年表も織りまぜながら分かりやすく紹介されている。

本書の大きな魅力は、桐紙そのものが標題紙として本文内に数枚挿入されていることである。実物の桐紙は美しい柾目模様でたいへん薄く、紙同様の柔軟性がある。厚みを測ってみると、その厚さわずか0.1mm。これは本文紙の厚みと同じである。ハガキや名刺、封筒やのし袋など、桐の木目を生かした製品に生まれ変わり販売された。また生産量の25%が輸出されていた時期もあり、海外でクリスマスカードや装飾用の紙として人気があった。

桐紙の発祥は明治18年ごろ、桐の経木を貼った化粧箱が大阪で大流行したのがはじめとされている。東京・大阪で製造されていたが、このうちの職人の一人が良質の桐材と安い労働力に目をつけ、山形の地で桐紙業を興した。大沼家ではもともと桐下駄の製造・小売りを生業としていたが、2代目当主

が桐紙の製造技術を3年かけて独学で体得し、家業として発展させた。後に桐紙製造は山形県下に広がり、最盛期の昭和12年頃には工場の数50件超、製造枚数は月70万枚に達したという。

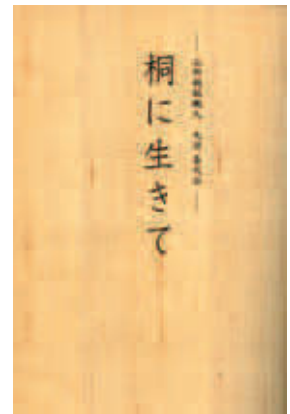
明治以降の激動の時代、桐紙業界に何度も危機が訪れた。第二次大戦中には職人が徴兵されるなどして働き手がいなくなり、加えて桐材が国の統制下におかれ製造が中止されたこともあった。乾燥すると軽量になる桐材の特性から、当時戦闘機の胴体に使用することが真剣に検討されていたというから驚きである。これまで幾多の困難を乗り越えてきた大沼家が、職人の高齢化や後継者不足などから廃業を余儀なくされたのはたいへん残念なことである。

桐紙の製作工程はすべて熟練した職人の手作業であり、製作には1か月を要する。冬に桐材を選び、伐採し、成型した原木から極薄の経木を削り取る。経木は漂白の工程をへてガラス板の上に1枚ずつ隙間なく並べ、そこに糊を塗り紙を貼りつける。最後に乾燥させプレス機で平らにし、完成となる。

本書はだれもが桐紙を理解できるようにたいへん分かりやすくまとめられている。未来に復活のときが来るかもしれないことを思うと、製造工程の記述が簡素なのが惜しまれるが、日本の優れた手仕事のひとつを本書は後世に伝えるだろう。

（収集書誌部資料保存課 宇野 理恵子）

※在庫切れのため入手不能。



標題紙



お知らせ

■ 講演会

「HathiTrustの挑戦

デジタル化資料の

共有における

『いま』と『これから』」

HathiTrust 事務局長であり、ミシガン大学図書館の副館長でもあるジョン・ウィルキン氏による講演会を行います。

HathiTrust は、2008 年、米国の 13 の大学図書館等が共同で始めたデジタル化資料のリポジトリです。2012 年 5 月現在、60 以上の機関が参加し、約 1,030 万点（図書資料約 550 万タイトル、雑誌約 27 万タイトル）の資料が登録されています。

ジョン・ウィルキン氏に、HathiTrust の取組みの現状と将来戦略等についてお話いただき、デジタル化された知的資源を共有するための、今後の日本における図書館連携のあり方を考えます。

講演に引き続き、大向一輝氏（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系准教授）、竹内比呂也氏（千葉大学文学部教授、同大学附属図書館長）ほかを交えてのディスカッションを予定しています。日英同時通訳付き、入場無料です。ぜひご参加ください。

○日 時 8月1日（水）14:00～17:00

○会 場 東京本館 新館講堂（定員約300名）

○お申込方法

7月31日（火）17:00までに、次のいずれかの方法でお申し込みください。
定員に達した時点で受付を終了します。

[ホームページ]

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/index.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > イベント・展示会情報

[ファクシミリ]

次の事項を明記の上、下記FAX番号あてお申し込みください。

①講演会名（「HathiTrustの挑戦」）、②氏名（ふりがな）③FAX番号

○お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 支部図書館・協力課 協力係

電話 03（3581）2331（代表） FAX 03（3508）2934



お知らせ

■ 利用者アンケート ご協力をお願い

国立国会図書館が提供する各種のサービスを改善するために、次のとおりアンケートを実施します。

■ 国立国会図書館ホームページアンケート

国立国会図書館ホームページを利用されている方々を対象としたアンケートです。皆様のご意見をお聞かせください。

○アンケートページ URL <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国立国会図書館について>利用者アンケート

○実施期間 6月25日(月)～9月21日(金)

■ 図書館アンケート

国内の図書館等を対象としたアンケートです。登録利用者制度に登録している図書館等の利用機関のうち、約1,200館に対して、7月に調査票をお送りする予定です。ご協力をお願いいたします。

○お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 企画課 評価係

電子メール hyoka@ndl.go.jp

お知らせ

■ 国際子ども図書館 夏休み催物 「科学あそび2012」



昨年の様子
「宇宙ってどんなところ？」をテーマに
月の形がわかる早見盤を作った

国際子ども図書館では、科学読物研究会の坂口美佳子さんを講師にお招きして、科学と科学の本に対する子どもたちの興味を引き出す「科学あそび2012」を開催します。

- 日 時 7月28日（土） 14:00～16:00
7月29日（日） 14:00～16:00
- 内 容 たまごの実験 ～アーチ型の秘密をさぐる～
- 会 場 国際子ども図書館ホール（3階）
- 講 師 坂口美佳子氏（科学読物研究会）
- 対 象 小・中学生
- 定 員 各日とも 40名程度
- 参 加 費 無料

○お申込方法

次のいずれかの方法でお申し込みください。

先着順で、定員に達した時点で受付を終了します。

申込みは6月21日（木）からです。

[来館申込み] 国際子ども図書館 1階子どものへやカウンター

[電子メール] kagaku12@kodomo.go.jp

（タイトル・件名欄に「科学あそび2012」とお書きください）

[往復はがき] 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49

国際子ども図書館「科学あそび2012」係

（返信用はがきに返信先の郵便番号、住所、氏名をお書きください）

※電子メールまたは往復はがきの場合は、参加者（子ども）1名につき1通に氏名（ふりがな）、学年、郵便番号、住所、電話番号、希望日（両日とも参加可能な場合は優先順位をお書きください）をご記入ください。

○お申込み・お問い合わせ先

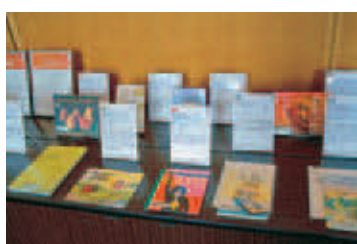
国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課 児童サービス係

電話 03（3827）2053（代表）

※通常の「子どものためのおはなし会」はお休みします。

お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「世界のバリアフリー絵本展—国際児童図書評議会 2011年推薦図書展」



2010年開催時の様子

国際子ども図書館では、7月31日から「世界のバリアフリー絵本展—国際児童図書評議会2011年推薦図書展」を日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催で開催します。この展示会は、障害のある子どもたちのために作られた、世界各国のバリアフリー絵本について知り、障害のある子どもたちへの理解を深めることを目的としています。JBBYが資料を貸し出して行われる巡回展の一環であり、国際児童図書評議会（IBBY）障害児図書資料センターが世界18か国から選定した推薦図書60作品等を手にとってご自由にご覧いただくことができます。

点字や手話付きの絵本をはじめ、人形に触れて動かすことができる立体的な布絵本、障害者への理解を深めるための本など、さまざまな絵本を展示します。

障害のある子どもたちだけでなく、赤ちゃん、読書が苦手な子どもたちから大人まで、どなたでも楽しむことができます。

皆様のご来場をお待ちしています。

○お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課

電話 03 (3827) 2053 (代表)

※他の巡回展会場と会期については、JBBYのホームページをご覧ください。

JBBYホームページ (<http://www.jbby.org/index.html>) > What's new?

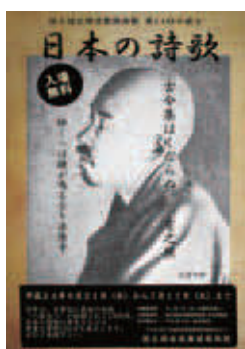
> 催事のご案内

URL <http://www.jbby.org/news/index.html?c=2>

- | | |
|-------|-------------------|
| ○開催期間 | 7月31日（火）～8月26日（日） |
| ○休館日 | 月曜日、8月15日（水） |
| ○開催時間 | 9:30～17:00 |
| ○会場 | 国際子ども図書館ホール（3階） |
| ○入場 | 無料 |

お知らせ

■ 関西館小展示 (第11回) 「日本の詩歌」



第11回の関西館小展示では、「日本の詩歌」と題して、日本の短歌や俳句、近・現代詩、漢詩に関する資料を紹介します。

平成24(2012)年は、「八雲立つ」で始まる最初の和歌が記載された古事記が献上されてから1300年になります。また、与謝野晶子や萩原朔太郎没後70年、石川啄木没後100年、正岡子規没後110年、齋藤茂吉生誕130年にあたるなど、日本の詩歌の歴史からみると節目の年といえます。

展示では、明治期に発刊された『明星』などの詩歌雑誌をはじめ、近代日本の著名な歌人・俳人・詩人の代表作を収録した初版本または初出資料、加えて万葉集以降の歌集など、日本の詩歌の歴史の上で代表的な資料101点を、関西館で所蔵するものの中からお紹介いたします。

- 開催期間 6月21日(木)～7月17日(火)(日曜・祝日を除く)
- 開催時間 10:00～18:00
- 会場 関西館 総合閲覧室
- 入場 無料



左から『古訓古事記』(京師 永田調兵衛 1874)、『明星 第1次 辰(9)』(東京新詩社 1904)、『定本青猫』(版画荘 1936)

『明星 第1次』は与謝野鉄幹主宰の新詩社の機関詩歌雑誌。浪漫主義に基づき短歌の革新などに貢献した。展示資料には、与謝野晶子が日露戦争で旅順攻囲戦に従軍していた弟を嘆いて詠った『君死にたまふことなかれ』の初出が掲載されている。



お知らせ

■ 平成 24 年度 科学技術情報研修

国内の図書館員を対象に、科学技術情報に関する知識を習得し、科学技術情報分野のレファレンス・サービスの向上を図ることを目的として、次のとおり平成 24 年度科学技術情報研修を実施します。

- 日 時 9月27日(木)、28日(金)
- 会 場 関西館 第1研修室
- 対 象 公共図書館職員および大学図書館職員等。
※研修参加者には、事前に課題を課すほか、事前調査票にご回答いただきます。
- 定 員 30名。1機関からの参加は原則として1名。応募多数の場合は調整します。
- 内 容 科学技術分野のレファレンスでは、多種多様なツールを使用します。前半では、各種レファレンスツールや調査時のキーワードの選択方法等、回答に至る過程に重点をおいて解説し、科学技術分野のレファレンスで広く応用できる考え方の習得を目指します。後半では、国立国会図書館が所蔵する科学技術分野の専門資料のうち、規格資料や会議録等主要な資料群を取り上げ、その特徴や入手方法をご紹介します。いずれの講義にも演習を取り入れます。
- 参 加 費 無料。ただし、旅費・滞在費等は受講者の負担とします。
- お申込方法 ホームページに掲載している申込書にご記入の上、電子メール、FAXまたは郵送で7月27日(金)までにお申し込みください(必着)。
- お申込み・お問い合わせ先
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
国立国会図書館 関西館 図書館協力課 研修交流係
電子メール training@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9117
電話 0774 (98) 1445 (直通) 担当: 篠田、松井

※ 申込書および研修内容の詳細はホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>)

> 図書館員の方へ > 図書館員の研修

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/index.html>

お知らせ

■ 図書館調査研究レポート No.13 『東日本大震災と 図書館』 を刊行しました



2012年3月 352頁 30cm.
ISBN 978-4-8758-2732-0

「東日本大震災と図書館」をテーマとして平成23年度に実施した調査研究の成果をまとめ、平成24年3月に『東日本大震災と図書館』（図書館調査研究レポート No.13）を刊行しました。震災発生から平成24年3月までの約1年間の、図書館の被災状況や支援活動、震災関連の記録を保存する活動等の情報を可能な限り網羅的に収集、整理しました。また、海外の読者のため、英文要旨（Summary）および1章「導入」・2章「概要」・8章「論考」をまとめて英訳した9章（The Great East Japan Earthquake and Libraries）を掲載しました。

この報告書はホームページで全文をご覧になれます。

○URL <http://current.ndl.go.jp/report/no13>

カレントアウェアネス・ポータル (<http://current.ndl.go.jp/>) > 図書館調査研究レポート > No.13 東日本大震災と図書館 (The Great East Japan Earthquake and Libraries)

○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 調査情報係

電子メール chojo@ndl.go.jp

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 736号 A4 51頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・米国連邦緊急事態管理庁（FEMA）と我が国防災体制との比較論
- ・2011年におけるスペイン憲法改正及び政党間合意の成立
- ・ニュージーランドの選挙制度に関する2011年国民投票（短報）

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Hiragana shinbun osana etoki : Nishikie-style city news for children
- 04 Salvaging materials damaged in the Great East Japan Earthquake
 Thinking back on the past year's support activities of the NDL
- 12 Materials newly available in the Modern Japanese Political History
 Materials Room
- 18 Scripts Archives Symposium
 "In Search of Lost Scenarios and Scripts: the Significance of the
 Recycling of Culture"
- 11 <Tidbits of information on NDL>
 Let's get into the areas stricken by the Great
 East Japan Earthquake
- 25 <Books not commercially available>
 ○ *Kiri ni ikite : kikigaki Yamagata kiri shokunin
 Ōnuma Kiyoji*
- 26 <Announcements>
 ○ Lecture "HathiTrust: Status and challenges in
 consolidating the digitized published record"
 ○ Call for participation in the user questionnaire
 survey
 ○ Summer event at the International Library of
 Children's Literature "Fun with science 2012"
 ○ Exhibition at the International Library of
 Children's Literature "Barrier-free Picture
 Books from Around the World - IBBY
 Outstanding Books for Young People with
 Disabilities 2011"
 ○ Small exhibition in the Kansai-kan (11)
 "Japanese poetry"
 ○ Training program for information on science
 and technology in FY2012
 ○ NDL Research Report No.13 *The Great East
 Japan Earthquake and Libraries* published
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成24年6/7月号 (No.615/616)

発行所 国立国会図書館
 編集責任者 田中久徳
 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
 電話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

平成24年6月20日発行 定価525円
 (本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会
 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
 電話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「日本橋」 見返し
泉鏡花著 東京 千章館
大正3（1914）年 293 p. 22cm.
装幀は小村雪岱による
「近代デジタルライブラリー」でご覧になれます(モノクロ画像)
<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/909724>

国立国会図書館月報

平成24年6月20日発行（毎月1回20日発行）
（6/7月号通巻615/616号）

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円（本体 500 円）